

議会懇談会 「東中会館」

と き 11月6日(水)9:30～

ところ 東中会館

出席議員 岡本副議長、小林議員、北條議員、金子議員、茶谷議員、島田議員、井村議員
司 会 議会運営委員会 金子副委員長
あいさつ 金子副委員長

議員：議会は現在色々と改革を進めている途中である。主に定数と報酬を今回の議会懇談会のテーマとし、住民の皆様からの意見を広く広聴させていただきたい。忌憚のないご意見をいただきたい。

現在、特別委員会をつくり次の3年後の選挙に向けて何人が必要とされている人数なのか、適切な金額なのかを勉強中である。忌憚のないご意見をいただきたい。

自己紹介 金子議員→小林議員→島田委員→岡本副議長→井村議員→北條議員→茶谷議員

【第1部】テーマ「議員定数と報酬について」

議員：今回の選挙は上富良野町にしては珍しく投票率が低い選挙。前々回の選挙は68%の投票率であったが、今回は60.2%であり約8%下がった。議会に対する関心がなかったのかと思う。そのあたりを深堀できたらと思う。

町民：議員定数に関しては現状選挙が行われており、欠員しているわけではない。近郊の自治体と比べても多くないと思う。報酬に関しては、美瑛町が同じくらいの人口で20万。昔から美瑛のほうが少し高いが、できれば次回の選挙でそれくらいに追いつけるような報酬になれば良いと思う。決して高い報酬ではないと思う。議員報酬だけでは生活できない。定職で仕事を持っている自営業か、拘束されないような仕事や年金受給者でないといけないのが現状。若い人に育ってもらうにはもう少し上げないとだめかなと思う。

町民：多いか少ないかまだ分からない。判断できない。

町民：報酬も定数ももう少し上げたほうが良いと思う。

町民：定数に関しては仕事をする上でどれくらいの数が一番良いのか…がつつり減ると議会の運営に支障をきたす。多過ぎてもただいるだけだと思ってしまう。報酬は倍くらい上げて議員さんたちにプレッシャーをかけても良いと思う。

議員：議員定数と報酬と言われても恐らく皆さん難しいと思う。自分自身は議会にとって非常に大事なテーマだと思っている。議員の数が増えるほど少数の意見をたくさん拾いやすくなるメリットがある。その反面、当然議員に対する報酬のコストがかかる。人数がいることで意見がまとまりづらくなることや、一人一人の責任感や存在感が薄まる。

定数を減らした場合にどういうことが起こるのかを考えると、当然町からの財政の支出は減る為、町に残るお金は増える。一方で、少数の方だけに支持されている方や、知名度のなかった方が受かりにくくなるデメリットがある。ただ、少人数の為議論などがスムーズに進む可能性がある。報酬に関しては正直自分もどうしたら良いか答えは出ていない。今の報酬が多いか少ないかはもらっている人の状況によって変わってくる。報酬を増やしたら議員になってくれる人が増える可能性などがあるが、増やしたからといって必ずしもそうなる保証はない。

町民：議員の数が増えると町民の意見が聞けるというのはどういうことか。

議員：議員が増えるとそれに関わる関係者が増える。より身近な議員が増える。

町民：最近は人口が1万人をきっている。住民1,000人に対して議員1人とされている。これから人口は増えないと思う。当然減らしていくのが現状。

議員：議員が増えると細かい声が聞けるという意見もあるが、私はそうではないと思っている。

議員：定数が増えると様々な意見を吸収することができると思うが、個人的には定数はこのままでやむを得ないと思う。

議員：自分が入る前は定数20名だった。減らしたときのデメリットは町民の声が聞きづらくなる。

議員：一度落選を経験している。選ばれた人にならなくてはならない。選挙は必要である。何人が適正なのかはなった人でないと分からないと思う。ある程度町民の声は必要。報酬については、年齢で差をつけてもいいと思う。現役世代だと報酬だけでは生活できない。

町民：投票率が落ちているのは考えなければいけない。選挙に対する関心がなくなっている。定数は人口と共に減らすべきだと思う。物価も上がってきているため報酬も上げるべき。

議員：人口減少は自然減もある。商店街がなくなっている。農業者より後継ぎがない。

議員：定数を減らしたからといって果たして町は良くなるのかと言われると正直分らない。自分が議員になる前は、議員って何をやっているのか、こんなにいてもお金の無駄ではないのかと個人的には思っていた。増やした方が拾える意見が増えると思うが、町民は増やさないで今の人数でもっと話を拾ってくれと思っていると思う。しかしこれからを考えると色々な人が議員になることで色々な意見が拾える。数云々より議員の中身を変えていった方がいいのかなと思った。目的をどこに置くかで考え方が変わると思う。

町民：報酬などは誰が決めているのか。

議員：特別職等報酬審議委員会が約2年に1回開かれる。

町民：どういう基準で決まるのか。町政も会社のように人口が減れば給料も人も減らすべき。世間の給料の一般論に沿って決めていただきたい。

議員：平成12年くらいに報酬審議委員をやったことがある。だいぶ前の話だが、当時は役場主導であった。

議員：報酬に関して妥当と言えば妥当で、少ないと言えば少ない。

町民：人口の流れも見ろべき。額を年功で変動制にするのも悪くないと思った。

町民：定数については、今の人数でまわしているのにはそれなりの理由があるのだと思うのでそのままが良いと思う。

議員：教育委員や農業委員も見直さなくてはいけないと思う。これだけ人口が減ってきているのに役職は減らさないで出してくれというのは難しい。こういうことも町全体で考えていかなければならない。

町民：知識のある人を議員につけて活動できないのか。

町民：報酬はどれくらいもらっているのか気になっていた。仕事にもよると思うが安い気がする。定数を減らすと経費は低くなる。人が減ると仕事の負担は増えるのか。

議員：私個人の意見だがやる仕事は変わらないと思う。

町民：定数を減らして報酬を増やしてはどうか。

議員：その計算は成り立つと思う。自分たちの身を切らないで給料を上げろとはならない。

(10:30 休憩)

【第2部】 これからのまちづくり

議員：ここからはフリーで、地域の課題など何でも構わないのでご意見をお願いします。

町民：昨年 PTA 会長をやった。給食センターが閉鎖される話を聞いたが本当なのか。それと配膳トラックが故障して大変なことになった。もしこの状態が続くようなら改修などの検討は。

議員：給食センターは広域議会である。閉鎖される話はない。まったくの噂である。トラックは2台とも故障した。今修繕している。給食が1週間ほど止まってしまった。気を引き締めて行政運営していただくよう議会からも強く言っていく。子どもたちの安心安全のためにもしっかり予算を割いていただく。

町民：給食が休みだということでお母さんが四苦八苦している。トラックは定期的に更新するなどの計画がなぜないのか。せめて一台は動く体制をつくらないといけない。そういう町の財産にしっかり気配りをしてほしい。

議員：最初に壊れたのは平成の一桁のとき、約30年近く使っている。

町民：レンタカーはないのか。

議員：レンタカーはない。給食センターが古くて2.8mより高い車が入らない。給食センター自体が40年経っている。今のご意見はしっかり伝えさせていただく。

町民：議員さんや議会のことをよくわかっていないため判断が難しい。よりわかりやすい議会広報をつくっていただきたい。

議員：個人的には表紙だけでもカラーにしたいと思っている。読んでいただけるように日々苦労している。

町民：福祉バスを住民会でありがたく利用させていただいている。人数の制限を下げたい。
だきたい。

議員：監査などの理由で人数の融通が利かない。人口自体も減っているので利用人数も変えていかなければならない。

町民：福祉関係の仕事に携わっている。町民が生活しやすくするための税金の使い方を考えてほしい。今回条例改正の話が出ていたと思うが、小さい金額のことで渋っているが、建物など億単位で補正が可決されている。財政が厳しい中で小さいものはだめなのに大きいものは良いのかと思っている人もいるはず。喜ばれるお金の使い方を考えてほしい。高齢者に優しい町のようなキャッチフレーズがほしい。ちょっとしたことでもしてくれば高齢者はあの議員さんが動いてくれたと思ってくれる。

議員：首長の力の入れるところが我々と少しずれている。年齢の差もあると思う。これだけ物価が上がって年金暮らしの人に物事を上げるのは良くない。

町民：ふるさと納税について、自分はメロンしかわからないがやる人（事業者）が少ない。申し込みがありなるべく年度中に送りたいが、在庫がないときもある。申し込みが多すぎて供給できないとなったとき町は把握しているのか。お金だけ先にもらって品物は来年になってしまう。

議員：本当は生産者の方が事業者としてやってほしい。中間事業者が儲かっている。もしかしたら上富良野産ではないものかもしれない。

町民：中富良野町は役場から直接連絡がきて割り振りしているときいた。生産者が均等に潤うシステムになってほしい。

町民：さとふるなどを見ていると受付期間が短い。最近農作物の申し込みがすごく多い。ロットが追い付いていないのがもったいない。

議員：今、ふるさと納税と移住定住を職員2名で行っている。これではどっちもいっぱいいっぱいになってしまう。先週九州のほうに視察に行ったときに、ふるさと納税を外注委託し町に新しい会社をつくり、そこで管理する形にして役場ではやらないというスタイルであった。上富良野町もそうしていかないと役場職員もいっぱいいっぱいなる。せつかくいいものをつくっていたり、外から来てくれるのに活用できていない。今後は、ふるさと納税・移住定住・新規就農もそうだが町で全てやらず別の機関をつくって請け負えたら良いと思っ

ている。

議員：中富良野町は発送まで町がやっている。上富良野はスタートから違う。今やっていることは下請け丸投げ。第三セクターなどをつくって町の職員を配置するなどしか解決方法はないかと思う。研修に行っても、我が町のものは我が町でやるところが伸びている。

議員：上富良野の一番の課題は、農産物をつくったことがない人が発送している。行政が企業の丸投げしている。

町民：中にはずば抜けていて（寄附件数が）ものがなくて困っている人もいる。反対にそこまで出なくて在庫を抱えてしまう人もいるため。役場の職員を中に入れて第三セクターみたいなものをつくって管理をしてもらえば、町の活性化のために努力くれるのではないか。

それと、未来のまちづくりについてこれからどうしたら町の人口を増やしていけるか。住民会長の自分の所に離農したあとの空き家を何とかしたいと何件か農家がある。役場では受け入れがあるというがなかなか目に見えない。話してみると何も把握できていない。もう少しまちをまわってもらいたい。議員からも農業委員に声をかけてほしい。農業は減っていく一方でぎりぎりになってしまう。厳しい現実だがもう少し活発な活動をしてもらいたい。

町民：移住して20年くらい経つ。よくやっていると感じている。この間北海道新聞の記事になっていたが、上富良野はなぜ選挙が多いのかとあった。町を良くしたいと思っている人が多いのだなど。活発に議論などしていると思う。特に町にしてもらいたいことはないが、町長選が気になる。個人的な意見だが町長と議会が対立までとは言わないが、なかなかかみ合っていない部分があると思う。議員を経験している人だとお互いの立場が分かるので上手く歯車が回るのかなと思った。議会だよりを真面目に見ているわけではないが、どこかちぐはぐだと感じる。どなたか手を挙げて選挙になってくれたらと思う。

町民：今年度東中小のPTA会長をやらせてもらっている。先ほどの給食の話だが、トラック2台体制だったのが1台になり、東中小に運んでくる時間が授業終わるぎりぎりになっていて先生たちが苦勞している。それと、2階に運ぶエレベーターが壊れていて使えない。階段の壁も壊れている状態が続いている。2階まで手で運んでいる。予算の都合もあると思うが、対応をお願いしたい。

議員：いつ頃からなのか。

町民：階段はおととしから。

町民：職員も見に来てくれるが一向に進まない。考えますと言うならやらないとだめ。金がないと言うのではなく、優先順位が低いと言ってほしい。

町民：東中中の現状と今後について。解体するのか。

議員：我々にも方向性は示されていない。草もボーボー。

町民：役場も一回は刈ってくれるが除草剤でもまかないとだめ。きつねやうさぎなどの巣が増えていく。中身は議員さんたちもわからないのか。

議員：わからない。

町民：町で管理している施設の管理はもう少しマメにしてほしい。

町民：地域おこし協力隊はいつから始まったのか。

議員：始まり自体は10年くらい前から。今現在で言うと、役場で務めているタイプと農業に携わっているタイプがある。自分はまちづくりのキーワードの一つだと考えている。主に首都圏から3年間の期限付きで上富良野町に来て何かをする人に対して、国から年間300万円の交付税の措置がある制度。これをどういうふうにするかはまちによって個性がある。上富良野町では観光に携わる、職員のプラスアルファの仕事をやってもらっている。あとはふるさと納税など事務的な仕事のパターンと、3年後に起業することを目指して国が300万円出してくれるなど色々なパターンがある。農業で主に新規就農したいと思っている方が去年あたりから入って来ている。これは今までの新規就農の制度とは切り離される。一人年間300万円あたりということで、非常にメリットが高い。この制度を色々なまちでどんどん使って行政の足りないものを補ってもらったり、事業継承のために使っている。

3年後定住せず他の町でまた協力隊をやったりする人や、多くとった結果あまり上手くいかない自治体もある。使い方によっては非常にまちに有益な制度であるものの、どうやったら上手く使えるかが課題。周辺の地域と比べると、農業支援の協力隊は先んじて始めている方である。自分たちも含めてどんどん知見を深めていかなければならない。

議員：上富良野は最近過疎指定されている。地域おこし協力隊は過疎指定されていないと、3大都市（東京・大阪・名古屋）からしか募集できない。過疎地域になったため、来る人材は豊富になった。

町民：管轄が違うと思うが、国道の縁石が草だらけ。白線に草が出ている。

町民：人口減が気になる。せめて減らさないように。

町民：新規就農などではなくても移住者に減税など考えてほしい。中富良野は家を建てる時の補助があるが、上富良野はそういうものがまったくない。もっと人口を増やす（減らさない）計画を考えてほしい。

町民：学校の先生など旭川から通って来ている。家族ごと来てくれたらいい。道の駅が気になる。計画もたっていないと聞いたがそれも寂しい。

議員：本日は貴重なお話をいただいた。最後に副議長より挨拶いただく。

議員：皆さんから色々ご意見をいただいた。現場の声というのをたくさんきけたと思う。町長に伝えるものは伝える。我々でできるものは考えていく。人口減という言葉がよくキーワードで出てきた。我々もよく考えているが正解が出ない。基幹産業である農業に関しては、今年はずごく出来秋で良い状態であったと伺っている。これがまた続き、価格が安定していくよう我々もできる範囲で頑張っていきたい。

色々試行錯誤をしつつ、皆さんと対話をしていきたいと思っている。

(11:51 終了)

議会懇談会 「JA ぶらの会場」

と き 11月6日(水) 9:30~

ところ JA ぶらの3階会議室

出席議員 中澤議長、荒生議員、林議員、佐藤議員、湯川議員、米澤議員、中瀬議員

司 会 議会運営委員会 米澤委員長

あいさつ 中澤議長

自己紹介 湯川議員→林議員→中瀬議員→中澤議長→米澤議員→荒生議員→佐藤議員

【第1部】 テーマ「議員定数議員報酬について」

町民→他の議会との比較がなければよいが、比較をせざるを得ないので、町としての在り方を考えないといけない。定数が少なければ少ないほど1人あたりに負担が伴うと考えられる。

議員 多いか少ないか妥当なのかというと思うか。

町民 とくに現状の在り方が、妥当と考えていた。一般質問もよくしていただいていると思うし、議会だよりもよく書かれているので良いと思う。14人の定数が長い歴史がある。

町民 議員の活動や日数などがわかっていないが感覚として二人は削減しても良いかと思う。それ以上の定数減は段階を踏んでいくべきと思う。上富良野町は、常に選挙がある。議会議員は資質がある方になってほしい。前回の選挙の時には名前の知らない方が立候補されていたので驚いた。ただ、減らすと新しい方が立候補しづらくなる可能性がある。固定票の関係もあるので難しい課題と思う。

議員 ただ今の意見、議員としてどう考えるか。

議員 まだ1期目であるが、改めて向き合ったときに、人口の減少もあるので個人的には2名減と考えている。ただ、人口減少が理由に定数を下げることが良いのかということを経験した議員の中で話をしている。たくさんいた方が町づくりの話ができるという意見を伺い、メリットもあると考える。ただ単に減らすことが良いのかというのが、今考えていることです。

議員 定数のことは、専門的な知識がないととくに農業に携わっていないので一般質問す

る際にも農業のことなどの質問ができない状況。定数は現状維持か減の方で考えている。

報酬については、自分の給料を自分で決めることはどうなのかと思っている。私たちの給料は前体制の活動の実績に応じて出されているものと認識している。このことから私たちが決めてはいけないと思っている。

議員 上富良野町の人口が1万人を切ったときに今の定数に疑問を持つようになった。今は、2名減をめざすことを考えている。定数については、議員は公職選挙法の定めがあるので、法的に出来ればの場合で話すと、定数を減らした上で、例えば女性の枠とか職業分野の職種枠などがあるとよいと思う。専門分野の職業のことを説明ができる議員がいるとまちづくりに意見を言っていけるのではと思う。ただ、議員になった以上、勉強はしていけないといけませんが、自分の分野のことに責任をもって説明していくことはもちろん大事と考える。

報酬の件は、自分から上げてほしいというのは言いづらいし、言うべきではない。ただ、町の議員の報酬は、活動を頑張ったことで、いただいているものと考えている。北海道内で見ても上富良野町は高い方ではない。上げることの雰囲気を出すは大事だと思うが。

議員 定数については、議長の立場からいうと多ければ多い方がよいと思う。町民のみなさんから意見を聞く耳がたくさん多い方がよい。人口が10,000人を割ってしまい、人口水準を考えると14名が妥当なのかどうかとも考える。町民に皆さんの声は人口に対し定数が多いという声も伺っている。自身悩んでいることだが、14名が一番運営をしやすい定数であるとも思っている。皆さんの声を聴き、議員間で話をして最終的に議員が決定していく。専門分野の議員というのは必要であると思うが、議員としては、すべての分野に精通しないといけない立場ではある。自身の考えは14名がよいと思うが、定数削減の声のことも若干考慮しなければと思っている。

議員 定数については、個人としては、1期目の順位が14枠の中13位、2期目は12位であった。自身の家族に議員定数アンケートを答えたという話があり、もし、定数減となると落ちる可能性があるねと言われた。就任時から考えているが、自身が議員であるうちは間口を狭めることは考えていなかった。行政のチェック機能を果たすうえでも、議員の多くの目、数、感覚で、見ていくことが大事と考える。定数14名については、現状維持と考えているが、選挙のたびに審判を受けるべきだと思う。

報酬については、しっかりやることで得る対価であると思っている。10月から最低賃金も上がっている中で、議員報酬は何十年も上がっていない。時代背景に合わせてあげていくべきと考える。

議員 町民のご意見から考えても2名から4名を減らすことで検討すべきと考える。減ら

すメリットとしては、合意決定が速くなる。自分の役割が明確になる。議員の資質向上につながる。人口が減っている中で、選挙は競争原理を働かさないといけないので、人口減にあわせ定数も下げていくべきと考える。減らすデメリットについては、議会を監視することについて、減ることによってチェック機能が果たしているのかなどの課題があるので、議会モニターなどを活用し機能を構築していく必要がある。議員が出席する研修会で、議会不振がどうしたら起きるのかについて講義があった。その中で、議会全体としては、議会が終わったら必ず報告会を行うことや、議員個人としても議員報告会をおこなうなど、活動の見える化をすべきと思う。報酬については報酬審議会の判断を尊重したい。

議員 定数については現状維持で考えている。現在の人口は、極端な人口減少ではないと考える。あと、成り手の問題について、定数減とする場合、成り手不足の解消につながる要素はないと考える。会社に就業している方は、なかなか、本業をおいて出てくるのが厳しいし、女性の場合も家事、子育てなどがあることから専業主婦の方も同様。社会的な問題として、議会だけではできないが、議会全体で働き方改革について議論が必要であるが、その方向で行くときに、女性の議員の方、会社員の方の参画が可能となると思う。現状14名の中で、人口比として議員1人あたり600名の有権者の声を聴く必要があるが、定数減すると議員として、なかなか声を聞けなくなる。多様な職種、年代の方が出てくることで、町づくりについて考えることや環境づくりが大事で、子育て、商工業などについて話し合うことが大事。議員定数減は、成り手不足、女性の参加という点においてもどんどん遠のいていく。

報酬について、報酬を上げると単に議員が増えるわけでない。生活を支える点で、1定程度生活ができるための報酬が必要かと思うが、皆さんから意見を聞き、議会で議論を交わしながら問題提起ができればよいと思う。

議員 議員それぞれから議員個人の声があったが、この件で何かあれば。

議員 議員皆さんの意見、考えを聞いた。人口が減ったから減らさないといけないというのは言い訳でしかない。いろんな職業とか立場とかがあがるが、その部分しかわからないこともあるが、少なくすると大変なことも出てくるかと思う。

町議の段階の報酬で、勤め人を辞めて、議員だけで食べていけるかというとなかなか思う。市議であれば30万円あるから何とかなるかもしれないが、町議は厳しいと思う。

若い方が出てこないのはそういった問題もある。会社を辞めて出ると言ったら50歳は過ぎてしまう。無理に定数を減らすことではないのかと思う。

町民 報酬については、もう少し上げて良いと思う。選挙のこともあるし。ただ、上げすぎてあてにされても困る。資質のある方になってくれれば文句はないと考える。

町民 選挙については、議員定数が決まっている中で、票が少ない中で、枠の中であれば議員になれてしまうことはどうかとおもう。

町民 議員の職業のバランスは良いと思う。あと、女性がもう少しいても良いとおもう。若者（農家）が出てくるのは厳しいと思う。

議員 職業のバランスは良いが、残念なのは、自衛隊のOBがいなくなってしまうている。3割を占める自衛隊人口の中で、少し残念。農業については14名の内2名くらい。あと、女性はバランス的にもう少し増えてほしいと考えている。意図的に選ぶことができないことではあるが。

町民 若い女性は、旦那が職業についていけば出れると思うが。

議員 昔は地域から押されていたので、農業者の中でもバランスがとれていた。今は、特になく、出たい人が出ればよいという状況。中富良野町はいまだ、地域の代表という感じになっている。町場は違うが。地域で押されている方というのはほとんどいなくなっている。

議員 農業者なかなか出てこれないのは、後継者の関係であるのか。

町民 自分の仕事が精いっぱい。なかなか町のことをかんがえることはむずかしい。

町民 余裕がなくなっているのが現状。

議員 町民〇〇さんへ、議員の先輩として伺いたいが、選挙に出るにあたり家族の理解ということはどうだったのか。

町民 選挙に出る前から地域からの声があったことだったので、家族と相談はとくにはしていない。

議員 議員をやめる時の決断はどうであったのか。

町民 家族の看護が必要になり、農家の経営にも影響してしまうので。

議員 町民〇〇さんが余裕がないといていたことで、農業経営だけのことか。ハードルを下げることであればなど取り除けることは。

町民 農家の面積が親の時より大きくなっている。議会活動の日などが仕事の関係で、時間を拘束されるときびしいので、責任を果たせないと思う。

町民 今の農家機械は、GPS で動く時代であり、若い方でないと扱えない。このことから、仕事で抜けられると支障が出ると思われる。

町民 我々の年代は、議会に対し、関心を持ちつつある年齢になってきているとおもうが、だれが議員になるというところまでにはいたらない。

議員 暫時休憩。

10時30分休憩

10時40分再開

議員 会議を再開する。

【第2部】

議員 次に「これからのまちづくり」について話したいと思う。農業の大変さとかもあると思うが、皆さんどの様にお考えか。

町民 広域連合議員の関係、消防の話について、消防の本部は上富良野にあると思うが、そのことで、長野県の松本広域連合という大きな連合があるが、一番先に職員の一本化に取り組んだ事例がある。

上富良野の場合、本部機能を果たすために職員が各地域から来てもらわないといけないが、占冠村は人を出せない状況である。消防本部がありながら、人が少なくなると機能が果たせない状況になるが、すべて一本化しないとだめではないかと思おうが。給料の面もある。

議員 機能としては過去から変わっていない。昔は一部組合としていたが、処遇はそれぞれの町としていた。一本化するための解決の手段は、処遇を高いところに合わせる必要がある。しかし、地域に差があるのでその壁を乗り越えられていない。

町民 上富良野の消防の技術が大変高いと思っている。放水技術なども優れている。職員を一本化すると組織内で技術も向上すると思う。

議員 課題としては理解するが、地元の議会からなかなか言えない。広域議員が言うしかないが、なかなか一般質問もできていないと思う。地域が同じ方向を向けば良いが、地域の財政課題などがでてくるので解決能力が我々にはない現状。

町民 町に活気がないと思っている。町にお金が下りるような仕組みづくりが必要。あと、長く住み続けられるようなまちづくりが必要。たとえば学校の先生も旭川から町に通っている現状。アパートなどは建設されているが、農業のこともあるが、町の商業者も活気あるようになるためにはなかなか難しいのかと思うし、余裕がないと思われる。若い世代の方が議員になるとかもない。あと、泥流地帯のことが気になっている。いつ出来上がってくるのか。役場で振興公社の会議があり、その中でも話が出ていたが気になっている。

議員 すでに7年経過しているが、進捗状況がわからない。ただ、あとには下がれない状況でもある。ふるさと納税の企業版として行われていて、企業自体はすでに恩恵は受けているが、数年間先に遡ったときに町はどれくらいの負担かという計算はできていない。なんらかの形を町民に示さないといけない中で、文化祭を活用し物販を行ってはいたが実績を後付けするような事業しか行われていない。製作会社1社と折衝はおこなっているが、足跡は見え、現在、企業を鋭意探しているという状況である。当初の映画化のリリースの目標が十勝岳噴火の100年で、令和8年であった。来年度の予算で、3月までに映画化の事業としてできてこなければいけないので、そこが焦点となっている。専属的な職員を役場に置いているが、人件費を含めお金も使っている。現在は進んでない。

町民 お酒をつくっていることはあると思うが。

議員 実績作りとしておこなっていることである。アナウンサーを読んで読み聞かせなどの事業も行っているが、映画化自体の確たる中身はあまり進んでいないと思う。

町民 映画を作るにはお金がかかるが元は取れるのか。

議員 無理であると思う。

議員 映画の関係は最初からうまくいくとは思っていなかった。制作会社が最初だめになり、次についてもだめになったこともある。結果的には、長引かせたことになおさらやめれなくなった。前町長の発案であったことで、現町長が判断するチャンスであったのだが。来年度が判断するタイミングと思っている。

議員 町長の想いだけでなく、映画化を進める会の母体があるが、その団体より何とか実現したいということで議員に話がきていた。正直、判断としては、一昨年のタイミングがターニングポイントであったと思う。

町民 町長も今なら判断できるのかと思ったが、そうでないということがわかった。

議員 有名な監督が間に入ったこともあり、これであればいけるという思いが当時にはあったのかもしれない。

町民 町立病院関係で、運営の中身がどうなるのか。現在、医院長と副委員長の雇用契約はどうなっているのか。

議員 医院長については、条例を改正し、定年を延長している。副医院長は会計年度任用職員だが、後継者がいればいつでも退くという話。

町民 働き方改革がすべて該当しているが、医者はこれまで、残業の概念がなかったが、患者がいれば見なければならなかったのだが、これからの時代はそうでないと思う。医大から派遣されても相手の職場のこともあるので、医大から人材を回してもらえなくなるのではないかと思う。将来的に考えると、自分のところの子は医大にいて、町に戻ってくるというような制度があったかと思うが。町でも助成をしていると思うが。

議員 すでに富良野沿線でも、実践されているが、地域の中で、人材がなかなか育たない。

議員 医者の確保、経営の安定運営が課題。医者が不足している。中標津の町立病院で法人の病院から送って、丘珠から中標津に飛んでいる航空会社と提携し、派遣するという形がとられている。当町も医者がいないと言われてからすでに10年は経過している。現医院長は、定年を迎える時期で、今後の事を考えるとどうなのかということがある。経営的に2億数千万円赤字補てんを町で行っているが、さらに建設の償還が令和8年から始まり、合計5億円が一般財源の中から払うとなった時に本体の経営がどうなるか心配している。あと、特別養護老人ホームの経営が赤字であり、町長の方針が、町が経営を支えていく手法で一般財源が充てられている手法で考えていて、行財政の将来がむずかしいと考える。

町民 ラベンダーハイツの施設はあと何年くらい持つのか。

議員 長寿命化を図るとい町長の答弁もあったが、以前、町立病院の建設の図面を見た時に、ラベンダーハイツの建設も計画されている部分があった。医者が1点で複合施設として、運営できるようなことが望ましい。

議員 高齢者福祉施設の経営はとても大変。当町は、特別養護老人ホームを経営しているが、介護報酬が下がってきていて、富良野圏域でも事業をやめているところがある。ラベンダーハイツがなくなってしまうと入れるところがなくなっている。グループホームも人手が少

なくなっている。やめるところが増えている状況。特養の必要性が出てくるが、富良野圏域で考えないといけないと思う。

町民 町立病院と介護医療院の経営のことについて、あと、特養についても国からも援助があるということで良いか。

議員 条件が若干違って、いずれも介護保険事業所であるが、比率が国と道で4分の2で、残りは利用者と町。ラベンダーハイツは要介護認定3以上、町立病院は医療行為がプラスで必要となる方を受け入れている。

議員 収入に対し、支出が多すぎる。普通の民間より安い、施設が多床室である。

議員 農業者と話す機会があったが、70代、60代を占める状況と伺っている。大規模経営も追いつかなくなってくる。世代継承できるような農業後継者を育てることについて、外部から取り入れることも出てくると思うが、農地確保できるような政策も力を入れる必要があると聞き及んでいるが、どう思うか。

町民 自分の地域は若い人がいるが、機械投資が出てくるので厳しいと思うし、第三者継承とかもむずかしいと思う。第三者継承は誰かの土地と機械を譲り受けるものだが、もともといる地権者と新しく後継者とのかわりも厳しくなってくると思う。

議員 継承を仮に受けた場合でも、なんでも機械化できると思っている。

町民 土地の思い入れがあるので、どの人にも譲れるわけでない。それであれば地域に住む人へとなくなっていってしまうと思う。

町民 離農者がえている。農地の管理も厳しい。

議員 国の政策が良くないと思う。十勝管内のようなところであれば、大きな面積などを持つ土地とかであれば良いが、当町の中では、効率の悪い土地に、自動操舵とかなどは合わない。地方の畑の条件整備、食料の安定確保について考えてもらわないといけない。国の政策がしっかりとしていけないといけない。農業者を守るための政策をうってほしい。

町民 足りないものは輸入すればよいというが、物が無くなった時には、自国がきびしくなったときに回ってこないと思われる。

議員 藤崎さんの下の年代の後継者が育っていくのかという心配をしている。

町民 長男が高 1 で、次ぎたいという意思がある。本別町の農大に行ってほしいと考えている。その世代になると何人残るかというのもあるし、余ってくる土地が出てくる可能性はある。機械化と言っても簡単に乗れる機械がない。

町民 上富良野八景について、駐車帯があるかと思うが、最初の景観のイメージから見てもかなり変わってきている。法面に生えている木があるので景観的にどうにかしてほしい。後、草刈りの件、なかなか回ってこないで、そういった八景のところを優先してもらえないかと思う。

議員 江幌も草分もどこの地区にも環境整備をやっている。町の草刈りが遅いということで、伝えたが、共同で買っている草刈り機がある。しかし、逆走的な作業を行わないといけないのだが、以前の町長に考えていただきたい旨を伝えている。町としてしっかり考えてほしい。

(厚生文教常任委員会委員長) 議会懇談会のまとめ

本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。忌憚なくご意見をいただき、後の議会活動で一般質問、予算委員会などでいただいた声を反映していきたい。

今回、議会懇談会の会場は、町の中での開催としたが、ピンポイントの地域で開催した方が参加者が多くるかもしれないというアイデアもいただいた。次回開催の参考としたい。

(11時35分) 終了

議会懇談会 「かみん会場」

と き 11月6日(水) 18:00~

ところ 保健福祉総合センターかみん多目的ホール

出席議員 中澤議長、岡本副議長、米澤議会運営委員会委員長、金子議会運営委員会副委員長、佐藤議員、荒生議員、湯川議員、林議員、茶谷議員、中瀬議員、島田議員、井村議員、北條議員、小林議員

あいさつ 中澤議長

【第1部】テーマ「議員定数と報酬について」

議員：今回は議員定数と報酬についてと、これからのまちづくりの2部構成で開催することになった。

議員：今議会は「より身近で開かれた議会を」ということで令和2年に議会活性化推進計画を立てて計画的に議会活性化を進めているところである。本年度においては重点項目として議会中継の実施、議会懇談会の開催、議員定数・議員報酬の3点を中心に進めていき、できるものからやっていく。

自己紹介 佐藤議員→中瀬議員→湯川議員→林議員→荒生議員→金子議員→岡本副議長→小林議員→北條議員→茶谷議員→島田議員→井村議員

町民：定数も報酬も増える考えはないと思っている。議会としてどのように捉えているか。

議員：まだ議会として最終的にどのような方向性に進むかは審議されていない。皆様からの意見や議員の意見を踏まえながら結論を出したいと思っている。

町民：昨年町民ポストを利用して、議会改革の推進についてどのように進んでいるのか、やれることからやった方が良いのではないかと要望した。回答の結論について教えてほしい。

議員：報酬と定数について議会改革の中で進めている。先ほど議長が言ったように令和2年から進めている。報酬については報酬審議会で決定されるが、定数については自分たちで決めることができる。選挙のたびに定数についてどうするかの話があった。今回すでに4回会議が開かれている。次回の3年後の選挙に向けては、定数の見直しが必要なのではないかと

いう結論に至っている。何人にするかは決まっていない。この議会懇談会での意見も大いに参考にさせていただき、町民の皆様の民意を聞きながら何人がふさわしいのかを決めていくという内容である。

町民：私は12名が適正だと思う。常任委員会は6名ずつ。そこに町民の意見を反映させるために町民とのワークショップをやりながら進めていけば、より良いものになるのではないかと思う。報酬についてはせめて現状維持。

町民：議員数は1,000人に1人くらいが一番適当ではないかと考えた。9名くらいが妥当だと思う。報酬は今のままでいいが、プラスアルファがあっても良いと思う。活動費を与えるのはどうか。

町民：議員定数の適正はよくわからないところはあるが、アンケートを事前に回答して色々考えさせられた。周りによく活動している議員がいる。どんなことをしているかが見えるすごく活動している議員もいるが、正直何をしているのか見えない部分もある。そう考えるとこの議員定数で良いのか？少なくとも良いのではないかと感じた。報酬については、条件などについて考える機会となったが、正直わからない。たくさん活動している議員には専業できるくらいの報酬があっても良いと思う。

町民：定数は10名くらい。兼業という考えもあるが、そちらに引っ張られてしまう気がする。一本立ちできるくらいの報酬が良いと思う。兼業というか専業というか、兼業でも良いが、独り立ちできるほどの報酬がやはり良いと思う。議員の本来の活動からかけ離れてしまう。報酬を高いという考えを持つ方もいるかもしれないが、もう少し高くても良いと思う。民間と比べても報酬を多くもらっている方もいる。

町民：今の意見を聞くと上げてても良いと思う。議員定数を減らしてその分一人一人の報酬を上げる。

町民：定数は課題によって変わってくるのではないかと。課題が複雑になると人数的に困難なこともあると思う。報酬は減らすべきではない。これだけの最高の景色の中でなぜ観光にもう少し力を入れないのか。そういう課題もまだまだ山積されている。今の議員定数で本当に足りているのかと思う。

町民：町の課題は山積している。政策サポーター制度を取り入れて対処していったらと思う。町民とのワークショップなどを講じて仕組みづくり、環境づくりが必要。今の状況だと議員の活動が見えないため報酬を上げる考えはない。

町民：昔懇談会をやった際、1,000人に一人が妥当という意見が大多数だったと思う。当時よりは上がっているが、専門にできるくらいの報酬にしたほうがいいと思う。179,000円では少ないと思う。定数を減らした分報酬を増やすといいと思う。

町民：京都からきて12年目になる。町民の提訴を行った者である。上富良野に来てすごく良い町だと思っているが、良い所を見い出せていない。なんでこんなところに来たの？と言われる。発信が議員からも少ない。富良野や中富良野と比較して何が違うのかは、ブランド力であるという話を聞いたことがある。ブランド力の発信は誰がすべきなのか。自分が来たときにはツルハのところにお店が集まっていて、便利なところに来たと思ったがみんな無くなり、ポストもなくなった。車がないと郵便も出せない。そういった意見を言うところもない。兼業だと179,000円で良いが、専業で子育てがあればもう少し上げないといけないと思う。議員定数が減っても報酬を多くし、汗を流してほしい。

町民：1,000人に1人という議員の考え方はやめた方が良い。村だと1人しか置けない議会が出てくる計算になる。最低何名いれば議会としてやっていけるかが重要だと思う。

町民：町民の意見を集約してもらうために議員がいる。議員定数について考えることも大切だが、SNSを活用しても良いので町民の声が町に届くようなしくみをつくってほしい。名前は知っていてもどういうことに詳しい方で、どの議員に相談したら良いのかわからない。思いはあっても壁があるように感じる。議員と町民が意見しやすい環境が必要。

町民：今回すごく良いなと思ったのが、親しみやすい懇談会の告知であった。これを見て本日参加した。議員報酬についてはもっと多くても良いのかなと仲間内で話をしていて、なり手を考えたときに専業できる報酬だと良いと思った。

町民：今回初めて参加した。美瑛や富良野と比べると置き去りにされている感覚がある。どうしてなのか考えた。議員なのか、町民なのか。みんなの責任だと思うが、その課題を一生懸命やってくれる議員がいたら多い少ないという問題ではないと思う。報酬は安いと感じている。

町民：若い人が出たいとなってもこのままだと生活が成り立たない。報酬を上げたら良いと思う。東川など他の町ではどんどん人口が増えているところもある。上富良野町も大企業を誘致して働きやすい町づくりをしたり、補助を出したりしていったほうが良い。

町民：議員定数に関してはよくわからないが、現状維持かなと思っている。父が議員をやっ

ていたが、報酬と聞いたときは少ない印象があった。会社員が議員を目指すとしたら少ないと思う。自営業の方しか議員になれない環境である。上げてもいいと思う。米澤さんは40年以上議員をやってきてどう思っているか。

町民：あくまで個人の考え。人口は減少しているが、極端に減っているのではない。定数を減らすと様々な業種、年代の方が出にくくなる。女性の社会進出も必要。現状維持しながら議会が分かりやすくなる仕組みなどが必要と考える。町民の方と話し合いや、発信していく意味でも現状維持が良いと思う。

(19:03 休憩)

○第1部まとめ

議員：議員定数と報酬について意見をいただいたが、定数は理想としては多ければ多いほど良いという考えを持っている。多様化している世の中なので1人でも多く。ただ、前回の選挙が終わったときに届いた意見としては、定数が多いという声をいただいているのも事実。まずはこのメンバーが議員定数についてどう考えているかを、今日皆さんからいただいた意見を参考に決定していきたいと考えている。報酬については、意見でもあったが兼業でこの金額だと若い人などが出られないという声もある。難しい問題であるが、議員の職業も多種多様であるため一律に決められるものでもない。今後皆さんからの意見も参考に定数・報酬について考えていきたい。

町民：いつ頃までにしようと考えているのか。

議員：特別委員会を設置している。次の6月までに報告したい。あくまで報告として行う。変わるのであれば条例改正が必要なため議員発議をする。

町民：令和4年6月16日報告の議員定数・議員報酬調査特別委員会調査報告書は一度白紙に戻すということか。

議員：そうである。当時は14名定数のうち19名の候補者がおり、5名が落選したという結果を受けての委員会であった。一年前の選挙は、14名のうち16名であった。今は選挙の状況が変わっている。

町民：町民は委員になれないのか。

議員：議長を除く13名の議員で構成というルールになっている。

町民：会議の公開はしていないのか。

議員：公開はしていない。報告書をもって報告となる。

【第2部】テーマ「これからのまちづくりについて」

町民：議会の見える化をどんどん進めてもらいたい。議会ポストもない。議会に関心を持つ方が増えることが大事。

町民：議会がこうしているというのを発信してもらいたい。YouTubeなどで配信してほしい。

議員：現在理事者部局と調整中である。録画なのか中継なのかを検討している。議員の総意としては早く進めたい。中継なのか録画なのか。議員としては中継にはこだわらない。おそらく議会をやっている時間に皆さん見られない可能性が高い。中継だと技術的にも費用的にも非常にかかるということで、まずは録画で一般質問だけでもお届けしたい。できれば早期に公開したいと思っている。理事者側と足並みを揃えている。

町民：録画の方が時間を気にせず見ることができる。

町民：各常任委員会の録画も配信していただきたい。

議員：まずは本議会から進めているところである。委員会などはその次の段階と考えている。誰が動画の編集をするのかなど色んな問題が出てくる。しかしどこかで判断してやらないといけないと思っている。もう少しお持ちいただきたい。

町民：議会中継は何年も前から話が出ている。常任委員会の公開はすでに行っている自治体もある。行動で示していただきたい。そうでないと町づくりは進んでいかない。

議員：議会はもう進めているが、理事者側が止めている。資機材も個人のものを使っている。

町民：各常任委員会の会議録は公開しても良いのではないか。情報公開請求をしてお金を払わないと見られないが黒塗りされている。

議員：黒塗りのところは個人情報が入っているため。

議員：冒頭でも話したが、今推進計画を策定しており、その中で一年間にできるところから進めていく。一気に43項目できたら一番良いことだが、この人数の中で一つのことをやろうとしたら結構な時間がかかる。

町民：動画を私物で行うのは負担が大きいかと。

小林議員：決してこのために購入したわけではない。議会中継に関しては今までも要望をいただいていた。今は試行段階で行っている。低価格で録画配信できることがわかった。

町民：大町子ども会の会長をやっている。子ども会で大きなイベントができないかと考えている。課題解決をできたらと思っている。子どもたちが無料で入場して、無料で色んな体験ができるようなイベントを企画中である。2月16日にかみんで行う。

町民：法人に所属していて日頃から子どもたちに関わることが多い。今はひとり親や不登校、貧困、孤食など深いニーズを抱えている子どもたちに何かできないかと思い、今年度から活動を始めている。子どもたちのきらきらしている部分を大人が邪魔をしてはいけないということを考えながら、それを大人たちが見守っていく姿が豊かなまちづくりに生きていくと感じている。

町民：町民になって20年になる。子どもたちのやりたいことはなんだろうということを常にやらせていただいた。当時教育委員会でサポートしていただき、子どもたちといろんなことができた。20年の間に様々な時代があった。今は自分の年齢と体力を考えながら細々と学校で読み聞かせや朗読をしている。今回初めて、チラシを見て町全体のことを考えなければいけないと思った。皆さんの意見を聞きながら思ったのは、特にジオパークの再認定。ジオパークは観光のことなのか、農業のことなのかなど自分たちも知りながら勉強している。上富良野産の野菜にジオパーク〇〇野菜としたり、もっと発信されていけば良いと思っている。町全体が一つになれる課題がジオパーク再認定だと思う。様々な年齢・職業の方と再認定に向けて何かできれば、上富良野が一体感をもって進めるのではと思う。

町民：いただいた資料の中に「町民の幸福と想像を目的としたまちづくり」という素晴らしい言葉がある。子どもの不登校のサポートなどをしてきた。最初は幾ばくか報酬をいただいていたが違和感を感じ、その代わりやりたいことをやらせてほしいとお願いし、了承していただいた。心にとどめていただきたいと思うのが、今1人1人大変なお仕事をされていると思うが、その仕事がお金をもらえなかったとしても本気でできるか？ということを考えていただきたい。

町民：農業者として、町とのギャップがある。町民が減っていく中で町の人はどう増やしていくのか。新規就農者政策があるが、農家は国からのお金も減らされている。地域おこし協力隊などが組み込まれているが、継続して上富良野の住民になってくれるかは不透明である。町の人たちは町民を増そうとする考えをどう思っているのか。町の人たちにも頑張ってもらわないといけない。農家の高齢者は68歳が平均。今後経営していくときに何人残るのかは想像がつくと思う。国は新規就農進めているが、町のひとはどう思っているのか。

金子議員：午前中農業者の方を中心にお話したが、空き家があるが行政と上手く連絡を取っていないため、せっかく入ってきた人も二の足を踏んでいるという話も聞いた。しっかり行政に伝えていきたいと思っている。

町民：議員の方が町の環境をどう思っているのか聞きたい。除雪の関係や歩道の段差のことなど。電動カートを利用する方にも危ないと感じている。

金子議員：執行者ではないため直しますとは言えないが、そういった住民の声があったと行政側にしっかりと伝えていく。住民会長でももちろん我々でも気軽にご相談いただければと思う。

町民：これからのまちづくりに関して個人的に道の駅が早くできればといいなと思う。

町民：人口減少と言われているが、確かに企業もなく学生も残っても就職ができない状況。何か町の方で打つ手は考えているのか。

議員：特に移住定住について様々な一般質問等行っている。企業の誘致もなかなか進んでいない。自衛隊もお子さんが入ってこない現状。国へ要望はしているが決め手がない。移住者の議員もいたり、移住定住に力を入れている議員もいる。

町民：本会議で移住定住について質問しているが、理事者となかなかかみ合う答弁がもらえていない。お一人お一人はすばらしい考えはあるが、一人ひとりの意見をぶつけるだけだとなかなか難しいと考える。どうすればいいのか。議員一人ひとりの思いを聞いて、町民とともに政策提言をしていくべきと考える。それをまとめ上げるのが議長、副議長の役目だと思う。町民の声があることをワークショップなど開いて政策提言のサイクルづくり、条例化づくりが必要。協働の町づくり条例にもつながっていくと思う。幸福感のある町づくりへとつながっていく。ただ町民が参画できていない。企画立案の当初から町民と創り上げることで、町づくりに参画することにつながると思う。

議員：皆様から大切なお声をいただきました。しっかりと理事者へ伝えていく。

副議長：第1部では定数と報酬についてお話させていただいたが正解はなく、各自治体で事情は変わってくる。比較はできても同じルールにするには難しい。各議員や町民の声を聞き情報を出し一生懸命やっていきたい。第2部のジオパークや情報発信に関しては我々も努力していき、理事者にも伝えていきたい。子どものイベントについては、今少子化という面もあるため大切にしていきたいと個人的に思っている。

遅くまでお付き合いいただき、色々勉強させていただいた。今後の糧とし、どういう形になるかは分からないがアウトプットしていきたいと考えている。

(20:05 終了)